

第2回羽咋市復興アドバイザーボード会議

議事録

【開催要領】

1 開催日時:令和6年7月19日(火)午後7時～午後8時40分

2 開催場所:羽咋市役所4階401会議室

3 参加者 :27人

①出席委員 9名(敬称略、順不同) ※オンライン参加含む

高山 純一	公立小松大学サステナブルシステム科学研究科教授
三浦 要	金沢大学理事(企画評価・地域共創・広報戦略担当)／副学長
谷 俊秀	国土交通省北陸地方整備局能登復興事務所技術統括マネージャー
太田 峰誉	国土交通省北陸地方整備局金沢河川国道事務所副所長
吉田 弘明	北陸農政局西北陸土地改良調査管理事務所次長
角田 雅彦	石川県こころの健康センター所長
三井 孝秀	はくい市観光協会会長
坂室 英仁	羽咋市商工会会長
松田 孝司	まち・ひと・しごと創生総合戦略会議委員代表

②オブザーバー 2名

長野県

宮城県栗原市

③羽咋市 16名

市長、副市長、教育長、部長、事務局

④傍聴 2名

【議事次第】

1 開会

2 副市長挨拶

3 事務局説明

(1)資料に基づき説明

説明員:山下災害復興推進室係長

(2)各委員からの意見・質問

4 市長挨拶

【説明資料】

資料1 羽咋市復興計画(素案)

資料2 委員等からの提案等による復興計画への反映

資料3 復旧・復興に係る意見聴取及びアンケート調査について

資料4 復興計画案概要「復旧・復興に向けて」

資料5 支援制度説明資料「被災者支援について」

資料6 復興まちづくり市民懇談会アンケート

【アドバイス・意見交換】

A 委員

- ・各委員の意見や住民の要望が網羅的に記載され、前回よりも分かりやすくなった。
- ・デジタル総合戦略とこの復興計画がどのように関連してくるのが見えない。もう少し分かりやすくできないか。
→事務局) 表記の仕方について内部で協議し、改案する。
- ・資料1の27頁1内「復興にあたっては、(中略) 将来像を描くことが必要になります。」について、将来像とはどういうものか。基本方針のことかもしれないが、表現方法を見直し、何を指すのか明確に記載した方が良い。
→事務局) 基本方針を分かりやすくできるように内部で協議し、改案する。

B 委員

- ・住民の声が反映された復興計画となっており非常に良い。
- ・資料1の27頁にあるとおり、住民・地域・行政の協力は重要である。ただ、市外や県外の企業及びNPO団体の位置づけはどう考えているのか。今後そういった団体とも協力する可能性があるのであれば、施策ロードマップの備考欄に記載した方が良い。
→事務局) 追加できる団体について担当課と協議し、改案する。
- ・資料1の14頁「【2住み続けるふるさと(地域)を再生する】1-③耐震診断・耐震改修の推進」について、アンケート結果でも多い意見だったので、集中して取り組んでいくべきだと思うが、長期施策として令和12年まで継続となっている。技術的なことも考慮してのことだと思うが、メリハリをつけた記載にすることもできると思う。その方が見る人に対して一定の安心感を与えることにもなる。
- ・資料1の21頁「【4インフラを迅速に復旧・強靱化する】1-④上下水道の早期復旧・耐震化率向上」についても、中期まで太い矢印、長期は細い矢印にするなどメリハリをつけた記載にできると思う。そのようなロードマップの表現ができると良い。
→事務局) 視覚的にメリハリをつけ、分かりやすく記載する。
- ・資料1の3頁にある表では「前期、中期、後期」と記載されているが、これはロードマップの「短期、中期、長期」と同じ意味か。であれば表現を統一してほしい。
→事務局) 表現を統一する。

C 委員

- ・前回に比べて網羅的に反映され良いものになっている。
- ・アンケートの回答者の年齢を見ると若者が少ないが、若者の意見を反映できているのか。
- ・資料1の27頁に「4地域の実情に応じた個別計画の作成」とあるが、どのようなイメージか。
→事務局) 市内の液状化エリアである5地区は、国と連携して復旧を進めていくが、

ボーリング調査や工法の検討などで時間がかかる。地区の住民からいつ復旧・復興ができるのかを早く示してほしいとの意見があったので、各地区と協議し住民の意向を聞きながら、スケジュール等を分かりやすく作っていきたいと考えている。

D 委員

- ・前回に比べて中身が詰まった計画となっている。
- ・復興計画を総合計画に合わせて進めていくというのは理解しているが、計画の期間や中身について柔軟な対応ができるようにしておいてはどうか。計画を進める中で、復興計画に書いてある以外にも必要となる取り組みが出てくることがある。その度に計画を見直すのではなく、適宜計画に盛り込めるよう「弾力的に変えていく」などの記載があると良い。

→事務局) 資料1の3頁にも記載をしたが、「弾力的」という表現を用いるよう記載を改める。

E 委員

- ・計画の期間について、県は14年としているが羽咋市は12年としている。復興にむけて能登を引っ張っていくという意気込みが感じられる。農政局としても支援する。
- ・資料1の15頁【3地域経済を復興する】2-③内に記載がある「地域計画」とは、集落単位の計画のことである。これをしっかり引継ぐことが、新たな担い手を探す良い機会となる。
- ・トキやコウノトリは復興のシンボルに位置付けることができる。

→事務局) 今後も農政局と協力しながら進めていくのでよろしくお願いします。

F 委員

- ・資料1の9頁【1くらしを再建する】内で人とのつながりを明文化したのは良いことである。

→事務局) 孤立、孤独化とならないよう、社会福祉協議会からもアプローチしている。これからも働きかけを続けたい。仮設住宅だけでなく、みなし仮設住宅の入居者についても検討していく。

- ・資料1の10頁にあるような幼児専門職への勉強会はぜひ開いてほしい。また、専門職だけではなく保護者に対しても勉強会を開いてほしい。

→事務局) 保護者に対しての勉強の機会も設けていく。

- ・資料3の10頁(6)では、「被害程度が大きいほど(中略)未回答の割合が多い。」とある。見通しが立たない人ほど危ないので、粘り強く訪問するなどケアを行ってほしい。

→事務局) 見守り支援を行うほか、住まいの支援窓口とも連携して情報収集しながら進めていく。

G 委員

- ・今が最も「能登」が注目されている時期なので、特に9月から1月までにPRをしていく必要がある。能登半島広域観光協会でもそのように考えている。復興計画に盛り込むことでないかもしれないが、9月から羽咋市に人が来るよう動かないと、手遅れになってしまう。

→事務局) インバウンドを市に引き込む効果的な方法を含めて、担当課と協議していく。

- ・復興まちづくり市民懇談会で集まった人数は各町の何パーセントなのか。若者の意見はどれだけ反映されているのか。20～30歳代の若者が創造的復興について意見を出す機会をつくる必要がある。こういった会議を予告して中継したり、SNSを活用して若者の意見を集めたりしてほしい。

→市長) 若い人にも職業や年代などでジャンルがあり、若者として一律にはできないので、今まで開催してきた市長と語る会と同じように、ターゲットを絞ってジャンル別で意見をきいていく。

H 委員

- ・網羅されていると思うが、具体的なことが見えてこない。ロードマップを見ても何をもって達成したといえるのかもよくわからない。そういったことは別のところで議論するのか。

→事務局) 具体的な事業については、実施計画のなかで決めていく。総合的に取りまとめる復興計画、進行管理する実施計画、地区ごとにまとめる個別計画を、順次策定に向けて進めていく。

- ・今まで市が実施してきた人を呼ぶ施策が、今回の地震で実を結んだと思う。羽咋市は能登をけん引する力を持っているので、応急仮設住宅を災害公営住宅に転嫁するなど、他にはないことをやっていくべきである。

I 委員

- ・心と体のケアについて、仮設住宅から退去した後の孤立感解消まで盛り込んであるのが良い。
- ・相談や会話をする相手がおらず、環境的に閉じこもり気味となる単身世帯のケアが求められるので、計画に盛り込んではどうか。

→事務局) 仮設住宅から離れるタイミングの自殺リスクが高まる傾向にあると話があったので、ケアを継続していく。単身者のケアについても、支え合いセンターと状況を確認しながら見守り支援を行っていく。

- ・「仮設住宅」、「応急住宅」、「応急仮設住宅」の表記があるが、意味は同じか。
- ・資料1の22頁【5 将来を見据えた災害に強いまちをつくる】2—①内「町会及び自治会」とあるが、「町会等」としてはどうか。

→事務局) 表記ゆれについて、「応急仮設住宅」で統一し修正する。

「自治会」については、眉丈団地のコミュニティのことなのであえて表記している。

」 委員

- ・包括的に整理がなされ、充実した計画となっている。
- ・ロードマップの矢印の太さの使い分けについて教えてほしい。
→事務局) 太い矢印は短期的に力をいれる部分、細い矢印は継続して取り組む部分、太い矢印が途中から細い矢印に変化するものが力をいれたあと継続的に取り組む部分という使い分けである。
- ・社会福祉協議会など、ロードマップの備考欄に記載が漏れている団体があると見受けられる。協働の姿を備考欄で示せるよう、できるだけ網羅するのが望ましい。
- ・ロードマップの備考欄に記載する団体の順番は、メインになるところを最初にした方がよい。
→事務局) 担当課と協議して反映する。
- ・資料1の20頁【4インフラを迅速に復旧・強靱化する】3—③内に「消防団の(中略)分団詰所」についての記載がある一方、22頁【5将来を見据えた災害に強いまちをつくる】には記載がない。消防団の役割はソフトにこそあるべきである。
→事務局) どのような記載が適当か担当課と協議して反映する。

K 委員

- ・住民の意見を反映できている。
- ・ロードマップの矢印内に記載されている「予定」と「状況に応じて検討」は、実施しないこともあるのではないかという後ろ向きな捉え方をされそうなので、表現を再考してはどうか。
- ・資料1の22頁【5将来を見据えた災害に強いまちをつくる】2地域コミュニティの再建について、ここにあるよりも、13頁【2住み続けるふるさと(地域)を再生する】3地域コミュニティ施設等の再建への支援に入れた方が適切のように思う。このまま【5将来を見据えた災害に強いまちをつくる】に残すのであれば、避難所開設など共助のことを記載すればよい。
→事務局) 担当課と協議して反映する。
- ・資料1の13頁【2住み続けるふるさと(地域)を再生する】3—②の内容と、ロードマップの主な取り組みの表記「神社等の再建支援」が不釣り合いに思える。
→事務局) 復興基金のコミュニティ再建支援についても参考にしながら、表現を修正する。

4 市長挨拶

5今後の予定、その他

6 閉会